

桜蔭俳話会 六月句会(第三八四回) 選句結果

令和二年六月二十五日(メールによる句会)

五句選句(そのうち、特選一句)

2点① コロナ禍の梅雨にこもりて昼の酒 いつ子

蛍火や寄り添うベンチ影二つ 眞壽

つゆ入りや雨に咲く花いと眩し 和幸

2点 居眠れる羅漢に苔や梅雨晴間 友子

1点 梅雨の街コロナしぶとく生きてをり 明美

3点① 梅雨入りやまだ滲み足らぬ土の色 潤子

万緑や吾子とコロツケパン食す 直子

3点 ペダル踏む琵琶湖一周山法師 守

4点② テキーラのグラス乾しけり誘蛾灯 秀夫

1点 舗装路を蛇悠々とくねりゆく ヤエ子

4点 名を呼べば薄目をあけて梅雨の犬 才美

3点 梅雨曇心に巢食う黒きもの ヤエ子

2点① 億年の地層の上の蛍火よ 才美

梅雨晴間窓のかたちにシーリング 明美

1点 コロナ禍のカラフルマスク梅雨の人 いつ子

薫風とふしをり文庫にはさみけり 秀夫

2点 サラダ好きサクサク刻む梅雨の朝 和幸

睡蓮の精が私に風が来て 直子

2点① 梅雨晴れ間珈琲の香と再会と 潤子

六月に白き花咲く名を問へり 眞壽

1点① 紫陽花の青は蘇生の彩ならむ 守

山道の叫びや蛇と見間違ふ 友子

3点① 全身を空つぽにして夕焼中 才美

悪意なき蜈蚣にしかと悪意持ち 潤子

1点 白髪染め止めると決心五月晴 ヤエ子

支持率の真つ逆さまに梅雨に入る 明美

1点 夕立や滴り走る窓の棧 眞壽

腹ばひて墨吐く龍や梅雨の雲 いつ子

2点 母の日の母へ土鈴を鳴らしけり 直子

エナメル椅子より立ち上がり薄暑 秀夫

1点 ウイズコロナに暮らす老後や冷奴 友子

果実三種香り漂う梅雨の部屋 和幸

1点 大釜に躍りし蝦蛄鎧かな 守

はらからの声恋ふ花袖咲きてより 才美

1点 黒南風や転落防止ネット揺れ 明美

新茶あり九谷の急須拭いをり 直子

梅雨の中子猫眠るよスヤスヤと 和幸

蛍狩ふはり手にのるエメラルド 潤子

1点 半夏生スマホゲームで日が暮れる 眞壽

丸き四葩へ顔埋めたき蟄居明け 友子

5点① 来し方の一つの歴史なめくじり 秀夫

草陰に蚯蚓消えるをそつと待つ ヤエ子

2点 さみだるる雲の重さや鳥ひとつ いつ子

いくかふは生命のこだま閑古鳥 守

3点 タクシーの空車の列や梅雨に入る 明美

小流の風に透きをり糸蜻蛉 潤子

2点① 梅雨曇喫茶のテーブルに指環 秀夫

1点① 斃れしは路の半ばや蟻急ぐ 守

墓出でて月下に目指す水鏡 才美

訪ふや十葉煎じたる句ひ 直子

初恋の名簿捜すや梅雨あがる 眞壽

1点 友危篤奇跡を祈る梅雨寒し 和幸

五月雨や手縫ひのマスクの布選ぶ 友子

1点 天も地も綿菓子模様さつき雨 いつ子

風五月木々のささやき終い風呂 ヤエ子

【事務局から】

○第一三八回通信句会作品募集

夏の季語を用いた三句。締切りは、八月三日(月)。

同封の葉書でお送りください。

○七月句会

七月二十五日(土)、午後一時から、旭区民文化センター(サンハート)で行います。通常の句会に戻ります。

兼題は、「青いきれ」です

句会に参加出来ず、不在投句をされる方は、句会前日まで五句を、事務局宛(岩野ヤエ子、横浜市旭区今川町十五の十)お送り下さい。五枚の短冊と出句控えをお送りください。(ただし、不在投句の方は、選句は出来ません)